

(様式1)

自 己 評 価 表

学校名 愛媛県立八幡浜工業高等学校

学校番号 35

教育方針	教育基本法のとおり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点努力目標	基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成 『思いやる心 自律の心 挑戦する心』 『ものづくりから人づくり・夢づくり、安心・安全で信頼される学校づくり』 1 確かな学力を身に付けさせる学習指導の推進 2 一人一人を見つめた温かい生活指導の推進 3 個性豊かな人間性の育成と特別活動の充実 4 職業観・勤労観の育成と実践的キャリア教育の推進 5 地域を愛し行動できる人間の育成(ボランティア活動の推進)
------	---	--------	---

領域	評価項目	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学校	教育活動の公開と情報発信	B	各種「たより」を毎月遅れることなく家庭へ持ち帰らせ、掲示板への貼り出しもできている。 各種「たより」や学校行事の更新等ホームページの内容を充実させることができた。 (ハエだより発行・掲示板掲示回数) 各 A:12回 (配布物家庭持帰り率) A:90%	これまでと同様に保護者に毎月初めに「たより」が届くことを知っていたが、届かない場合は子どもに催促していただくように今後とも願う。生徒には、保護者に必ず渡すように今後も指導を継続していく。 ホームページの内容や更新を充実させ、情報を発信していくように努める。
	保護者の意見反映	-	コロナ感染防止のためPTA総会等は実施せず。	コロナ禍が落ち着けばPTA総会等を実施し、その中で保護者の意見を反映させたい。
	図書館環境の整備と充実	B	委員による読書啓発活動を行い、新刊図書を購入や「図書館通信」の発行も例年通り行った。 年間一人当たりの図書貸出し冊数は減っているが、年度末には前年度程度になる見込みである。図書館利用者数は減少し、来館する生徒も固定化している。 (図書貸出冊数年間1人当たり) B:3.0冊 (図書室利用者数1日当たり) B:20人	ICT機器の充実により、授業で図書館を活用する機会が少なくなっているため、Wi-Fi設備を充実させ、教科との連携を図りながら、調べ学習等で活用できるようにする。 来館を促す広報活動を続けるとともに、図書の購入や企画等で活性化を図る。
経営	教職員の業務改善	B	部活動等の関係で特定の教員の時間外勤務が多くなっている。ただ、ワークライフバランスがとれていると感じる教職員の割合は低くないので概ね良好と判断できる。 (時間外勤務時間80時間(月)以下の教職員の割合) C:78.6% (有休年10日以上取得率) D:62% (ワーク・ライフ・バランスがとれていると感じる教職員の割合) C:78%	有休の取得については、部活動をはじめ担当している校務分掌等の兼ね合いから、取りづらい教職員がいるように思われる。休暇の取りやすい配置の検討や、随時取得の呼びかけをしていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

自己評価表

学 習	教科指導の充実	生徒による授業評価をもとに教科指導の課題について教科会で検討し、授業改善を図る。相互授業研修期間を含め、校内外で一人年間5回以上、授業参観や教科の研修を行い、授業力向上に努める。 (授業の理解度(ポイント)) A:3.0以上 B:2.9~2.7人 C:2.6~2.0人 D:1.9~1.3人 E:1.2~1.0 (相互授業研修参観回数(年)) A:5回以上 B:4~3回 C:2回 D:1回 E:0回	A	教育課程について、職員・保護者ともに一定の評価を得ている。授業改善については、コロナ対応等の忙しさもある中、年間の目標5回をわずかに上回った。授業理解度の目標は達成した。 (授業の理解度(ポイント)) A:3.5 (相互授業研修参観回数(年)) A:5.3回	本年度より、新教育課程が始まり、ICT機器の活用など、多くの教員が新たな取組を授業で試みている。来年度以降も、ICT機器の活用を進め、更なる授業改善に取り組み、魅力ある教育課程を構築したい。授業改善については、校内研修や教科会等の在り方を検討して、授業改善につながる学習評価に繋げたい。また、ICT、オンライン教育の研究・実践にも取り組んでいきたい。
	指導	定期的な家庭学習時間調査を行い、家庭と連携し、学習習慣の定着を図る。定期的実施しているエスタブリッシュメントテストの充実を図る。 (家庭学習時間(平日1日当たり)) A:1時間以上 B:59~45分 C:44~30分 D:29~15分 E:15分未満 家庭学習時間(テスト期間1日当たり) A:3時間以上 B:3~2時間 C:2~1時間 D:1~0.5時間 E:0.5時間未満	C	平日1時間以上の家庭学習が定着できている生徒が、昨年度より大きく減少している。また、調査中の学習時間も減少している。エスタブリッシュメントテストの直前の学習時間も減少しており、その平均点も、前年度より低下している。 (家庭学習時間・平日1日当たり) C:39分 (家庭学習時間・テスト期間1日当たり) B:2時間3分	エスタブリッシュメントテストや定期考査への生徒の意識付けを、再度学校全体として取り組む必要がある。学習への動機づけのあり方など、今の生徒に合った方法を模索したい。資格取得への取組は、今後も各教科との連携を続けたい。
工 業	実践的技術者としての知識・技術	各種資格取得・検定試験合格個数(3年間)6個以上を目指す。 A:6.0個以上 B:5.9~4.0個 C:3.9~2.0個 D:1.9~1.0個 E:1.0個未満	B	各種資格取得・検定試験合格個数は5.6個で、惜しくも目標は達成できなかった。 (各種資格取得・検定試験合格個数) B:5.6個	各種資格取得・検定試験合格個数は、機械土木工学科が6.7個、電気技術科が4.3個で、科によって大きく差がついた。電気技術科の生徒は、挑戦しない、受験しても不合格になる生徒が多かったため、合格させるには、現在の倍くらいの補習時間の確保が必要である。
	教育	ものづくりの推進	ものづくりコンテスト等での入賞を目指す。地域と連携しながら、校内外の「ものづくり」に関わる行事に参加する。活動の成果に対し、達成感が得られるよう発表会を行う。 (ものづくりに意欲的に取り組めた生徒) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満 (公開講座・出前授業等参加人数) A:100人以上 B:99~75人 C:74~50人 D:49~30人 E:30人未満	A	高校生ものづくりコンテスト愛媛県大会において、測量部門で2位・3位入賞。中学生対象のものづくり教室・小学生対象のエネルギー教室ともに予定通り実施し、好評であった。課題研究発表会は各科で実施し、ホームページにも掲載した。インターンシップ発表会も2月に開催した。 (ものづくりに意欲的に取り組めた生徒) A:95% (公開講座・出前授業等参加人数) A:138人
特 別	ボランティア活動の推進	各教室のボランティア活動関係の掲示板を充実させ、参加する意義を教えるとともに意識の啓発にも努め、意欲的な参加を目指す。 (ボランティア活動等の自主的参加1人当たりの回数) A:1回以上 B:~3/4回 C:~1/2回 D:~1/4回 E:1/4回未満	C	新型コロナウイルス感染症対策も3年目となった今年は、少しずつではあるがボランティア活動も再開されてきた。しかし、大人数が参加できる環境では無かったため、延べ70名の参加となった。生徒の参加意欲は高く通常の開催となればより多くの生徒が参加してくれるものと考えている。 (ボランティア活動等の自主的参加1人当たりの回数) C:1/2回 (0.39回)	この3年で認知度が低下した活動も多数あるため、啓発活動をより充実させ生徒への認知度を高めることで目標はクリアできると考えられる。
	活動	学校行事の充実	充実した委員会を10回以上開催し、積極的に参加したくなるような学校行事にする。 (生徒会委員会開催数(年)) A:10回以上 B:9~7回 C:6~4回 D:3~1回 E:0回	A	今年もコロナ禍により通常の外部への公開や招待はかなわなかったが、できる範囲で本校に来ていただく行事を実施した。その実施と成功のため自発的に企画運営にあたり、活発な活動を行った。 (生徒会委員会開催数(年)) A:12回

自己評価表

特別活動	部活動の充実	生徒自ら意欲的に取り組めるような魅力ある部活動にし、部活動加入率95%以上を目指す。 (部活動の加入率) A:95%以上 B:94~80% C:79~65% D:64~50% E:50%未満	A	今年度、運動部118名、文化部78名、延べ196名が何らかの部活動に加入し活動している。そのうち、19名は2つの部を掛け持ちして活動している。しかし、1名が未加入のため、100%とならなかった。 レスリング・野球・サッカーやWRO・ロボットアムフトなど、今年も各部良い成果を残している。 (部活動の加入率) A:99%	今年も1名未加入者が出てしまったことから来年こそは全員加入を目指したい。 生徒が極端に減少している現状でも素晴らしい結果を残していることから、やりがいのある部活動となるようバックアップに努めていきたい。
生徒	基本的生活習慣の確立	保護者との連携を密にし、欠席・遅刻・早退ゼロを目指す。 頭服指導を徹底し、高校生らしい身だしなみを心がけさせる。 (遅刻者数(年延数)) A:5人10回以上 B:10人20回 C:20人40回 D:30人50回 E:40人60回 (早退者数(年延数)) A:1人3回 B:3人5回 C:5人10回 D:7人15回 E:10人20回 (家庭訪問実施率・頭服指導の合格率) 各 A:75%以上 B:74~60% C:59~45% D:44~30% E:30%未満	B	遅刻数は、1年9人15回、2年6人12回、3年8人20回である。1、3年生の遅刻数が多いが、大半は通院や体調不良である。3年生の一部の生徒は、基本的生活習慣が確立されていないと考える。早退する生徒は通院以外ほとんどない。頭髪服装については、校則を年度途中で見直し、上級生になるほど合格率も高くなり、校内での大きな乱れはなく一定の成果が見られる。 (遅刻者数(年延数)) C:23人47回 (早退者数(年延数)) C:6人10回 (家庭訪問実施率) 30%(54人) (頭服指導の合格率) 各 A:88.9%	今後も、ホームルーム担任を中心とした個別指導と5分前登校の奨励を通して、社会人として通用するように生徒に基本的生活習慣の確立に向けて自覚を促していきたい。また、他の教職員と連携して、入室届・早退処理の徹底を図りたい。更に家庭との連携を密にし、基本的生活習慣が身に付くよう保護者に協力を願っていききたい。
指導	規範意識と社会性の醸成	交通安全教室、非行防止教室等を通して生徒の規範意識を育成する。 校門指導、教科指導、部活動指導を通して挨拶を励行させる。 (交通事故発生件数(年)) A:0件 B:1件 C:2件 D:3件 E:4件 (特別指導以上の問題行動発生率(年)) A:0% B:0.50% C:1% D:1.5% E:2% (挨拶のできる生徒) A:75%以上 B:74~60% C:59~45% D:44~30% E:30%未満	B	挨拶は、教職員・生徒の評価は高く、校門指導、教科・部活動での指導の成果が現れているが、学校を離れるにつれ評価が下がっており、まずは家庭での挨拶、協力も必要であるとする。 交通ルール・マナー、ヘルメットの着用については、命にかかわる問題であるので、今後も100%を目指していきたい。 (交通事故発生件数(年)) B:1件 (特別指導以上の問題行動発生率(年)) E:4.9% (挨拶のできる生徒) A:95%	挨拶は、これまでの校門指導を中心とした挨拶運動を専門委員会や、保護者の協力を得ながら継続していきたい。 校内での問題行動も発生し、校内巡視等についても改善しているところである。更に非行防止教室、全校集会等での指導を通して、規範意識の向上に努めたい。また、校門指導や登校指導を通してヘルメットの着用の重要性や交通安全意識を向上させたい。
人権	人権啓発の推進	「人権だより」、人権・同和教育ホームルーム活動や講演会などを通して人権尊重の意識を高める。 内容の充実した「人権だより」を年10回発行する。 (「人権だより」発行(年)) A:10回以上 B:9~7回 C:6~4回 D:3~1回 E:0回	B	教職員研修や人権委員会が書面開催に、講演会や人権委員夏季研修会は中止になり、教職員・生徒ともに研修の機会が少なくなりました。 「人権だより」の発行回数は、目標通り達成できた。ただ、内容をもっと工夫すべきだった。 (「人権だより」発行(年)) A:10回	例年通り、講演会や人権集会を開催して人権啓発の機会を今年度より増やしていく。 また、「人権だより」の内容を充実させるため、人権委員会の活動内容をより効果的なものに改善し、有意義な活動報告ができるようにする。
教育	いじめをなくする取組	いじめる生徒、いじめられる生徒ゼロを目指す。 いじめに関するアンケートを年2回実施し、教職員全員でいじめの防止および早期解決に取り組む。 (生徒の相談体制の充実度) A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:59%以下	C	いじめは0ではない。1回目の調査より、2回目の方が少なくなっている。アンケートで起きた問題については、教職員に周知し、関係教職員で協力して対応できている。 ただ、いじめ以外の相談事が増え、人権・教育相談課と他の教職員との意思疎通と連携がうまくいかない面があった。 (生徒の相談体制の充実度) C:77%	引き続き、教職員全体で、いじめやその他生徒が抱える問題を見つけたら、教職員間の意思疎通と連携を図りながら、早期解決に努める。
進路指導	就職指導の充実	キャリア教育を充実させることにより、望ましい職業観・勤労観を育成する。 就職試験の1次合格率90%以上を目指す。 (就職試験の1次合格率) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満	B	各科・各学年における職場見学や3年生の就職ガイダンス、応募前見学を行い、生徒の職業観や勤労観の育成を図ることができたが、今年度は合同企業説明会を実施することができず残念である。 求人状況は良好で、生徒個々の希望に沿った就職内定を得ることができた。1次合格率は95.8%であった。 (就職試験の1次合格率) A:96%	今後も校内での進路情報をこまめに発信するほか、公的機関や行政の主催するガイダンスや企業説明会を積極的に活用し、生徒の職業理解を深め、進路選択の幅を広げていく。 生徒個々の能力や適性を見極めて企業とのマッチングを図り、離職率の低下に努める。

自己評価表

進路指導	進学指導の充実	<p>生徒一人一人の希望に合わせた進路相談や進学情報の発信を積極的に行い、大学・専門学校などへの第1希望合格率90%以上を目指す。 (大学・専門学校などへの第1希望合格率) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満</p>	A	<p>オープンキャンパスへの参加や担任・部活動顧問との進路相談により志望校研究を行い、個々の生徒の希望に沿った進路を実現することができた。第1希望の学校への合格率は100%であった。 (大学・専門学校などへの第1希望合格率) A:100%</p>	<p>生徒の気持ちを尊重しつつ、なるべく早めに志望校や受験形態が決定し、余裕を持って受験対策を進められるよう、生徒・保護者に分かりやすい情報提供に努める。</p>
学校保健	健康管理と保健指導の充実	<p>健康診断結果の的確な把握と適切な指導を行うとともに、具体的な指導を計画し基本的生活習慣の確立を図る。 「保健だより」を毎月1回発行する。 (保健だより発行回数) A:12~10回 B:9~7回 C:6~4回 D:3~1回 E:0回</p>	B	<p>五感を駆使して身体症状を把握し、事前情報を浮上させ、その上で緊急度・重症度の判断を行った。また、適切な医療機関を受診できるよう支援した。 毎月の保健だよりは、最新の感染症情報と対策を中心に、見やすく分かりやすい内容で作成した。 (保健だより発行回数) A:12回</p>	<p>生徒のいつもの違いに気付くために、保健室での対応にとどまらず、校内巡視を多くし、不調による生徒の異変に早期に気付く、保健指導につなげる。今後もコロナ禍における生徒の実態や発達段階に応じて、機会をとらえ、指導していきたい。また、各学年団との情報交換を密にし、生徒の健康状態が学担以外の職員も把握できるようにしていきたい。</p>
学校安全	安全意識の向上	<p>様々な非常変災に対応できるよう、避難訓練を年3回実施することにより、生徒・教職員の安全に対する意識向上を図る。 (危機管理模擬訓練(年)) A:3回 B:2回 C:1回 D:-1回 E:0回 (予告なしの防災訓練(年)) A:1回以上 B:-1回 C:-1回 D:-1回 E:0回</p>	A	<p>本年度は(予告なしの防災訓練2回を含め)5回の防災訓練を実施した。予告なしの訓練でも生徒はしっかりと行動することができる等、生徒・教職員の安全に対する意識の向上が見られた。 (危機管理模擬訓練(年)) A:3回 (予告なしの防災訓練(年)) A:2回</p>	<p>緊張感を持って訓練を実施することにより、今後とも生徒・教職員の防災に対する意識向上を図る。</p>
学校	校舎・校庭・教室の環境	<p>校舎や校庭・教室の美化・整理整頓に努める。 (校舎・校庭・教室の環境整備度) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満</p>	B	<p>財源の関係で一部修繕できていない箇所はあるものの、おおむね構内の美化・整理整頓に努めることができた。 (校舎・校庭・教室の環境整備度) B:87%</p>	<p>生徒が安全で安心した学校生活が送れるよう、引き続き生徒と教職員全体で環境整備や美化に努めたい。</p>
行政	丁寧な接遇の励行	<p>丁寧な来客対応・電話対応に努める。 (丁寧な接遇の励行達成度) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満</p>	A	<p>学校外からの苦情等は特になく、丁寧な来客対応及び電話対応に努めることができた。 (丁寧な接遇の励行達成度) A:90%</p>	<p>保護者や地域の方等、相手の立場に立った丁寧な接遇を引き続き心掛けた。</p>